

# 畑ヶ田遺跡 (HD2011-1) 発掘調査 現地説明会資料

2011年8月27日(土) 富田林市教育委員会

調査期間：2011年7月11日(月)～調査中  
調査担当者：生涯学習部文化財課 角南 辰馬

## はじめに

富田林市教育委員会では、若松町一丁目における(仮称)新みどり保育園の建設に先立ち、弥生時代から中世にかけての集落跡である「畑ヶ田(はたけだ)遺跡」の発掘調査を実施しています。調査は現在も継続中ですが、本市の歴史を考えるうえでも重要な成果が得られており、現地説明会を開催することになりました。

## 調査の成果

保育園の建築面積にあたる約760㎡を調査しています。多くの柱穴や杭跡、土坑、溝など、300近くの遺構を確認しました。これらの遺構の時期については今後の検討が必要ですが、出土した土器からほとんどは奈良時代(8世紀)のものと考えられます。

### (1) 掘立柱建物跡

柱穴の並び方から、現時点で少なくとも5棟の掘立柱建物の存在を想定しています(建物1～5)。なかでも建物1、2の柱穴は、方形で一辺が最大約1mであり、他の柱穴は最大でも一辺60cm程度であることから、大きなものといえるでしょう。建物1、2はともに柱穴列が調査区の外に続いているため、建物の正確な規模は不明ですが、建物1は東西方向に長い建物であったことが分かります。

周辺の調査においても、建物1と同じ規模の掘立柱建物跡を複数棟確認しています。各建物の詳細な時期関係については今後の検討課題ですが、一般集落とは異なる性格をもっていた可能性も考えられます。

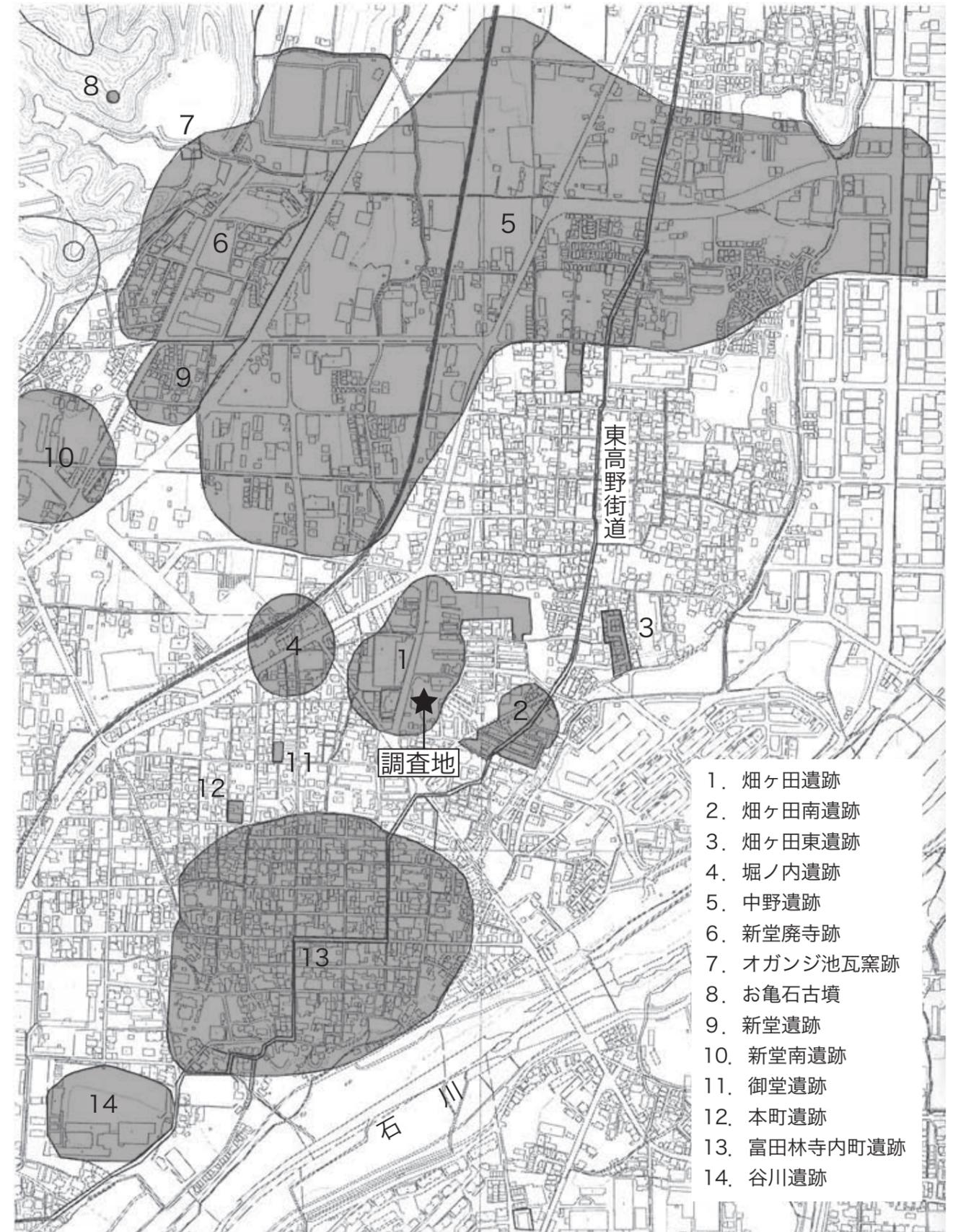
### (2) 銭貨が埋納された甕

調査区の南端近くで確認した穴の中から、ほぼ完全な形の土師器の甕が1点見つかりました。土師器の皿を逆さまにして蓋をしていたようですが、土圧によって割れており、甕の中に土が流入している状態でした。この土を取り除いたところ、甕の底に銭貨が存在することが分かりました。今後の保存処理および科学的分析に備えて、銭貨は動かさずに発見時のままの状態を甕に取り上げています。

銭貨については、現時点で5枚を確認しています。錆などが付着しており種類を特定できていませんが、そのうちの1枚に「開」ではないかと考えられる文字が認められ、甕の形状も奈良時代のものともみられることから、「和同開珎(わどうかいちん)」もしくは「神功開宝(じんぐうかいほう)」ではないかと思われます。

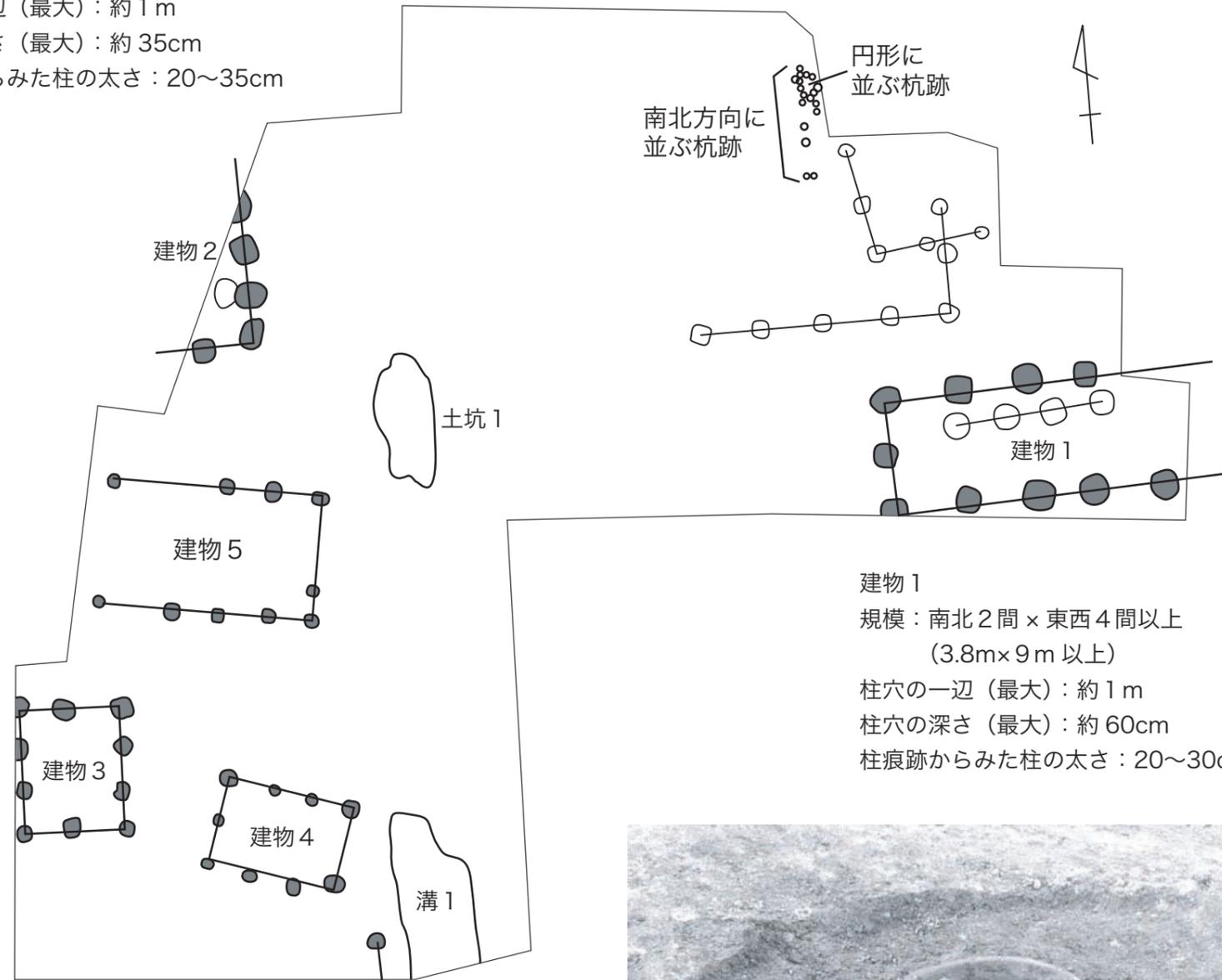
奈良時代において土器に銭貨を埋納する事例は、平城京跡(奈良県)で多く確認されています。大阪府下における確実な事例は、はさみ山遺跡(藤井寺市)と百済寺遺跡(枚方市)の2例がありますが、前者は井戸内より出土した土師器壺から確認されたものです。今回のように穴の中に据えられた例としては、府下では大変めずらしいといえるでしょう。

性格については、地鎮具もしくは胞衣壺(えなつぼ)の2つが考えられます。胞衣とは人間の胎盤のことで、民俗例によれば、容器に入れた胞衣を門口や土間に埋め、人が踏むほどその子どもがよく育つとされています。今回甕が見つかった穴が建物に伴うものかどうかは分かりませんが、科学的分析を行うことでもその性格に迫れるものと考えられます。



畑ヶ田遺跡と周辺の遺跡 (S=1 / 8,000)

建物 2  
 規模：南北3間以上 × 東西1間以上  
 (4.7m 以上 × 1.9m 以上)  
 柱穴の一辺 (最大)：約 1m  
 柱穴の深さ (最大)：約 35cm  
 柱痕跡からみた柱の太さ：20~35cm



見つかった遺構の配置略図 (S=1/200)

※主要なものを抽出して図示した。

建物 1  
 規模：南北2間 × 東西4間以上  
 (3.8m × 9m 以上)  
 柱穴の一辺 (最大)：約 1m  
 柱穴の深さ (最大)：約 60cm  
 柱痕跡からみた柱の太さ：20~30cm



建物 1 の様子 (人が立っている所が柱の部分)



和同開珎  
(708 年)

神功開宝  
(765 年)



万年通宝  
(760 年)

(参考) 奈良時代に鑄造された銭貨

(宮本長二郎 1986  
 『平城京 古代の都市計画と建築』  
 草思社 より引用・改変)

銭貨が埋納された  
 甕の出土位置



銭貨が埋納された土師器甕の出土状況



銭貨の検出状況